

関連学会印象記

第16回ヨーロッパ心臓病学会

大島 茂

第16回ヨーロッパ心臓病学会 (XVI th Congress of the European Society of Cardiology) は、第12回世界心臓病学会 (XII th World Congress of Cardiology) と合同で、平成6年9月10~14日までの5日間、Berlin 西郊の International Congress Center (ICC) において行われた。会期中は、曇りがちでときどき雨も降る天気であったが、日差しの強い北イタリアで病院見学をした後にドイツ入りしたわれわれには比較的しのぎ易く感じられた。

会場は、口述演題やポスターによる発表を行った28の会場のほか、製薬会社や医療機器メーカーの展示にも広いスペースが割かれていた。

この学術集会には世界各国から循環器領域の専門家が多数参加し、応募演題7791題のうちから採用された2397演題 (口述演題1179題、ポスター1218題) について活発な討論が行われた。日本からの発表も多く、地元ドイツ、イタリア、イギリス、フランスに次いで5番目に多い演題数であった。

発表内容としては、“臨床不整脈”に関する演題がもっとも多く、以下、“冠循環”、“心エコー図”、“心筋梗塞”、“Interventional cardiology”の順であり、この5分野で全体の約40%を占めていた。

2800名を収容する第一ホールで行われた main session で取り上げられたのは、“高血圧の新しい視点”、“不安定狭心症”、“急性心筋梗塞”；“最近の治療”、“最近の心エコー図”、“抗凝固療法の適応”、“動脈硬化の進展と退縮”、“心疾患予防の現状”、“心房細動”、“感染性心内膜炎”、“心筋梗塞後責任冠動脈開存の意義”、“Interventional cardiology の現状”、“心不全治療は進歩しているか?”、“心臓移植1994”の13のテーマであり、一般演題の傾向と同様、最近特に注目されているテーマが網羅されていた。これらの全てについてふれることはできないが、筆者が参加したいくつかのテーマについて、関連する一般演題の要旨も

含めて以下に述べる。

1. Interventional cardiology

冠動脈病変の形状や病変枝数によって PTCA (経皮的冠動脈拡張術) と冠動脈バイパス術のどちらを選択するか、冠動脈バイパス術後症例に対する PTCA、急性心筋梗塞症例に対する PTCA などについて議論された。一般演題ではレーザー、ステント、atherectomy などの new device について多くの発表があった。“どのような病変形態に、どの new device を選択することが適当か”については、ほぼ一定の見解が得られるようになってきているが、演題数からみるとレーザーや atherectomy よりもステントが特に注目されている印象があった。これには、ステント植込み後の再狭窄率が他の new device に比して低く、使用頻度が増してきていること、また、最近新しいタイプのステントが次々に開発されていることなどが関係していると思われる。

2. 急性心筋梗塞の治療

急性心筋梗塞の治療については、血栓溶解療法やアスピリン、ヘパリンなどの適応と禁忌、direct PTCA, rescue PTCA の適応、さらに個々の症例において、血栓溶解療法と PTCA のどちらを選択するかなどについて議論された。治療法の選択に関しては発症後ごく早期の症例では、禁忌がなければ direct PTCA が第一選択であるとする考え方が確立してきたように思われる。

3. 心不全の治療

ジギタリス、ACE 阻害薬など従来から使用されている薬物ばかりでなく、 β 遮断薬、新しい inodilator など、最近注目されている薬物の使用成績についての発表もあった。一般演題では、PDE 阻害薬や Ca^{2+} 感受性増強薬など、最近注目されている薬物について多くの発表があった。日本からは、梅沢らが PDE 阻害作用と Ca^{2+} 感受性増強作用を併せ持つ pimobendan の単回静脈内投与効果について、多施設共同研究の結果を発表した。それによると、pimobendan は 1~2 mg の低用量から前負荷を軽減し、3~5 mg では後負荷の

軽減もえられ、心係数は有意に増加していた。また、投与後、不整脈の有意な増加も認められなかった。このことは、pimobendanが陽性変力作用を有する従来薬物に比して心筋酸素消費量の増加が少ないこととも併せ、慢性心不全患者に対して長期的に投与し得る可能性があることを示していると思われる。

このほかにも興味深い報告が多かったが、虚血性心疾患領域における new device、心不全領域における PDE 阻害薬や Ca^{2+} 感受性増強薬、不整脈領域における ablation など、循環器領域のいずれの分野においても急速な進歩がみられ、かつそれらについて多くの観点から検討が加えられていることが印象的であった。また、欧米の臨床研究は非常に対象数が多いことも印象的であり、日本でも今後多施設共同の大規模研究を積極的に行っていくことが必要であると感じられた。